

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校

学校番号 25

I 自己評価（学校運営）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	学校運営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用アンケートの肯定的な回答（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計）の平均は86pで、保護者等用の平均は81pであった。おおむね高評価といえるが、昨年度より約5ポイント減少している。 「施設設備」の項目はエアコン設備の導入により大きく上昇した。 肯定的な回答が多かった主な項目 【生徒】「入学できてよかった」「モラルやマナーを身に付けさせる」「服装頭髪の指導」「安全衛生」「資格取得など明確な目標をもたせている」「体験学習を多く取り入れた教育活動」 【保護者等】「よろこんで学校に行っている」「成長の糧となる学校行事」「資格取得など明確な目標をもたせている」 肯定的な回答が少なかった項目 【生徒】「校内がきれいである」 【保護者等】「保護者の悩みや相談に適切に対応」「一人一人の能力に応じた学習指導」 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業改善に努め、生徒自らが学び考える授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。 (2) キャリア教育を推進し、生徒の自立のために必要な取組を積極的に実践し、魅力ある学校づくりに努める。 (3) 他者を尊重し、生命を大切にすることを実践し、規範意識や品位を備えた心豊かな生徒を育て、“人権文化あふれる学校”づくりに努める。 (4) 地域連携に加え国際理解教育を推進することにより、コミュニケーション能力とグローバルな視野を身に付けた生徒を育てる。 (5) 部活動、生徒会活動、農業クラブ、家庭クラブ、商業クラブ、Sクラブで生徒が主体となる活動を創出し、活力ある学校づくりに努める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各教科・学科単位の会議、分掌の組織 (2) 企画・職員会議と各種委員会 他 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 教科、学科、分掌での立案と実践 (2) 地域の方、支援していただける方の意見等	(1) 評議員、PTA、学校関係者の意見 (2) 日常の実践活動及び進路実現	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) キャリア教育の推進 インターンシップ、基礎トレ講座、意見発表会、職業研究ガイダンス、ビジネスマナー講座、学習成果発表会	(1) 進路状況、競技会、コンクール、発表会、資格取得の結果	A (B) C D
(2) 主体的に取り組む生徒の育成 地域や企業・大学等と連携した研究活動 出前授業や高校見学会を生徒が担当	(2) PTA、学校評議員、地域住民の意見 (3) 職員、生徒の意見	(A) B C D
(3) 心豊かな生徒の育成 朝読書、弁論大会、人権教育(ひびきあい活動)、遠足児童との交流、ボランティア活動		A (B) C D
(4) 国際理解教育の推進 ユネスコスクール加盟(グローバルイシューワークショップ)、海外体験研修、農業高校生海外実習派遣事業		A (B) C D
(5) 活力ある学校づくり 部活動、生徒会活動、MSリーダーズ活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動、商業クラブ活動、Sクラブ活動		A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活用した商品開発や持続可能な農業を目指した取り組みを推進し、積極的に情報発信することができた。 ○令和2年度農業科の学科改編に向けて、学科の方向性や教育課程、農場予算、施設、入試等について検討し準備を進めることができた。 ○新分掌を立ち上げ、百周年記念事業の業務を推進することができた。 ▲生徒や保護者が期待しているような一人ひとりの能力に応じた学習指導を展開することができなかった。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した活動を推進するとともに、総合学科と農業科併置のメリットを生かした研究活動や学校行事が展開できるよう工夫をする。 ・ICTの活用等により、一人ひとりの能力に応じた学習指導を展開する。 ・高い進路目標をもたせ、何事にも意欲的に取り組む生徒を育成する。 	

I 自己評価（教務部）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	教務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多面的な学習評価、一人一人の能力に応じた指導、教科による習熟度別や少人数授業が学習理解度向上につながるなどの学習指導に関わる項目について80%以上の生徒が肯定的評価としている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 (2) 課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 (3) ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組み目標と具現化に向けた積極的なチャレンジ (4) 生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部を中心に各教科・学科、進路、学年が連携し全校体制で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・自主学习ノートの実施 ・ICT機器の有効な活用により「わかる授業」づくりと「生徒が主体的に学ぶ授業」の実践など授業改善に向けた授業の振り返り、教員研修の実施	・学校生活に関するアンケート ・生徒による授業アンケート ・授業参観カード ・指導と評価の年間計画の振り返り	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 ①自主学习ノートの取組とやり切らせる指導の徹底 ②各教科、科目における宿題、長期休暇等における課題の作成 ③取組み効果の分析	・生徒によるアンケート調査結果 ・授業参観カードによる教員同士の評価結果 ・指導と評価の年間計画への記載事項 ・ICT機器の活用に関する職員の意見回答	A B C D
(2) 課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 ①専門科目授業におけるプロジェクト学習の充実 ②教育委員会指定事業「専門高校生地域連携事業」の取組み ③互いの取組の理解と連携内容の模索と提案 ④総合学科と農業科合同の学習成果発表会の開催		A B C D
(3) ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組み目標と具現化に向けた積極的なチャレンジ ①適切な発問と考える場面、話し合う場面を取り入れた積極的な授業改善 ②人権文化あふれる学校づくりに配慮した目標設定と、わかる授業、力をつける授業の推進 ③授業参観カードを取り入れた教員による相互評価と情報交換 ④生徒による授業評価の実施と、振り返りをもとにした目標設定		A (B) C D
(4) 生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案 ①農業科の学科改編に向けたカリキュラムの研究と運営方法 ②学校行事の見直し ③会議の削減と会議時間短縮 ④組織で行う指導		A (B) C D
11 成果・課題	(1) 自主学习ノートの取組みにより、家庭での学習時間を確保し学習する姿勢が一部の生徒については身に付きつつあるが、テスト等の結果とともに分析すると多くの生徒または学年においては、その成果は十分とは言えない。 (2) 地域との連携を多様化させながら持続可能な取組みとして進められるようになってきたことで、生徒は自信を付けている。人前で堂々と話ができる生徒、主体的に学ぶ生徒の姿が増えてきている一方、消極的な生徒への働きかけを考えていかねばならない。 (3) 教職員のICT機器の積極的な利用が見受けられ、授業展開に変化の兆しが見られている。その取組みから、生徒に何をどのように学ばせ、どのような力を身に付けさせるのかを目標設定しなければならない。 (4) 行事の精選および見直しについて、物理的な削減に取り掛かることはできたが、在り方や内容についての十分な検討をする必要がある。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	(1) 基礎的な知識・技術の定着に向けた日常の家庭学習時間の増加と定期考査週間の学習に対する意識改善 (2) 課題解決学習の充実と実践に向けた総合学科、農業科の連携推進 (3) ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組み目標と具現化に向けた実践例の研究 (4) 学校行事の在り方の検討	

I 自己評価（生徒指導部）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	生徒指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	前年度と比較して全項目で肯定的回答率が低下した。項目「いじめや差別の対応」の肯定評価は生徒85.8%（前年度92.8%）で、保護者は75.8%（前年度82.2%）であった。どんな事案も芽のうちに丁寧な対応をしているため、相談数や認知できた数値が高くなったと分析している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 (2) 自らの生命と健康および人権の尊重 (3) 安全・安心な学校生活の実現 (4) 教育相談の充実・チームサポートによるスクールカウンセリングの展開 (5) 問題行動防止と充実した高校生活実現のための全職員が連携、指導を行う	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導部と学年、学科との連携体制 生徒指導委員会、いじめ防止等対策会議、人権教育委員会等	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) MSリーダーズ活動や委員会活動を通じた規範意識の向上(2) 全校統一人権LHRの取組(3) 交通安全啓発活動(4) 教育相談活動(5) 生徒支援体制の充実	生徒・保護者のアンケート結果 遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ・身だしなみ指導の実施と学年会との連携した事後指導の徹底 ・コミュニケーション能力(挨拶・言葉遣い等)、マナーの指導 ・外部講師による情報モラル講話の実施と携帯電話のマナー指導 ・MSリーダーズ活動を通じた規範意識の向上	・各行事の実施状況や生徒の様子、感想等 ・MSリーダーズ活動後の生徒の成長 ・身だしなみ違反や問題行動件数 ・生徒や保護者のいじめに関する調査 ・スクールカウンセラーの活用状況	A(B) C D
(2) 自らの生命と健康及び人権の尊重 ・生活アンケートによるいじめの実態把握と早期の指導 ・全校統一人権LHR ・MSリーダーズによる人権啓発活動 ・大養祭における薬物乱用防止キャンペーンの実施		A(B) C D
(3) 安心・安全な学校生活の実現 ・交通安全強化指導の実施 ・自転車点検、交通安全講話の実施 ・MSリーダーズによる交通安全啓発活動		A(B) C D
(4) 教育相談の充実、チームサポートによるスクールカウンセリング ・宿泊研修や生徒指導ORを通じた1年生の適応指導の充実 ・教育相談週間や教育心理検査等の実施による生徒理解 ・SC、子ども相談センターの活用		A(B) C D
(5) 問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導 ・長期休暇前の生活指導の徹底 ・生徒への支援体制の充実(学年会、職員会議等で情報共有と連携)		A(B) C D
11 成果・課題	<p>【人権教育】学習年間指導計画に人権教育からの観点とその振り返りの欄を設定し、各教諭が毎時間の授業で生徒の人権感覚を育成する意識をもって取組めた。また、全校統一人権LHRでは、共通テーマでも各担任が人権に関する理解を深め、内容を工夫して準備し、学校が目指す生徒像の具現化を図ることができた。</p> <p>【積極的な生徒指導】自主的な生徒による学校づくりを目指し、今年は特別活動部と連携して生徒会活動の活性化に取組めた。靴下の規則改定について、生徒会はアンケート実施から生徒議会での論議を経て、生徒指導部へ提案。企画、職員会議を経て学校長の承認を得た。生徒会役員は、社会参画力や人間関係形成力を向上させ、仲間から喜ばれることで充実感と存在感も得ている成果が事後アンケートで確認できた。</p> <p>【未然防止】いじめ等の未然防止のため、年間通じて日頃から「あたたかい言葉がけ」で教室内の落ち着いた生活環境をつくるクラス運営を各担任が行うことができた。</p> <p>【情報のモラル】今年度新規に、宿泊研修時に新生徒対象情報モラル指導した。昨年度に多発したネット上のトラブルを未然に防ぐことができたものの、昨年末の改善方針に掲げた生徒主体の情報モラルおよびネットとの付き合い方を学ぶ取組と啓発活動が展開することができなかつたため、来年度は生徒会と連携した取組としていきたい。</p>	総合評価 A(B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<p>①「いじめ」「生徒の心の健康」「発達障がいを抱える生徒」等の理解をより深め、学校内の他分掌、学年、学科等及び学校外の専門家と連携し、さらに本校生徒に個別対応した指導ができるよう、研修・情報共有の時間を確保する。全教職員がチームとなってアセスメントと具体的支援方法を作り上げ、実践していきたい。</p> <p>②MSリーダーズ活動する生徒に少し偏りがあった。主体的な活動が全生徒へ広がるように工夫していきたい。</p>	

I 自己評価（進路指導部）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	進路指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	1) 適切な進路情報の提供、2) 将来の進路希望に沿った支援・助言、の2項目ともに、8割以上の生徒・保護者から肯定評価を得ており、前年度と同様、高い支持率を得ている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎学力およびコミュニケーション能力の向上 (2) 高い進学目標をもつ生徒への継続的・効果的指導 (3) 外部教育力や内部人材の活用、地域との連携 ポートフォリオを活用した自立意識の涵養		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年団を中心としたキャリア教育実践を進路指導部がサポートする体制 学年・教科・分掌の横断的連携体制 地域企業、外部人材との緊密な連携や地域社会との協同体制 働き方改革の観点からの行事精選		
6 目標の達成に必要な具体的な取組 (1) 基礎トレ、朝トレ、キャリアガイダンスの充実 (2) ドリカム講座、個別指導 (3) 外部教育力の活用、内部人材の活用 ポートフォリオ、各種アンケートの活用	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 1) 就職内定率、進学合格率 2) 難関志望者動向 3) 事後アンケート、感想・作文評価 進路アンケート		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 基礎トレ：基礎学力・一般常識の習得に主体的な取組体制を作った。3年前期は全クラスが統一して朝読書に代えてSPI対策や基礎学力の増強を目的に朝トレを実施し奏功した。 キャリアガイダンス：年間を通じて様々な進路ガイダンスや体験学習、講演会を実施。職業観や勤労観、人権意識を高め、進路意識や公共心、他者を尊重し感謝する姿勢を育むことができた。	(1) 基礎トレや朝トレに取り組む姿勢・定着度 各種ガイダンス前後の生徒の変化・成長	Ⓐ B C D	
(2) ドリカム講座：難関校志望者が切磋琢磨する環境を整えた。小論文指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促した。医療看護系等の難関校にチャレンジできる体制を築いた。 基礎力診断：新規教材の導入、実力テストの評価体制の改善により長期的視野に立った計画的・継続的な学習体制を作った。	(2) ドリカム講座への参加意欲・態度、成果 進学補習への参加者数・意欲、進学・就職に対応できる基礎学力の増強	A Ⓑ C D	
(3) 外部教育力の活用：ハローワークや地域社会と連携し、講演会や事業所展、事業所見学、インターンシップ、職業体験／模擬授業体験講座を実施。PTAや卒業生と連携し、面接指導や語る会を実施。外部講師を招き、全校進路講演会を企画し、人生観や人権意識を涵養し、進路意識の向上を図った。 事業所訪問：働き方改革で絞り込んだ65ヶ所の事業所を本校職員が訪問し、本校教育活動への理解を促し、新規求人開拓に繋げた。	(3) 生きる力、職業観・勤労観、進路意識の向上 外部人材、地域社会との協力的体制・信頼関係の強化 本校指定求人への質的・量的向上	Ⓐ B C D	
11 成果・課題	自己肯定感・有用感、大養ブランドとしての自尊心が高まり、基礎学力・自己表現力の強化育成が実り、就職希望者の多くは早々に内定を果たした。公務員受験者が昨年に続き5名受験し全員が1次通過した。ドリカム講座は17名が半年間継続的に受講し論文作成能力を向上させた。その成果として医療看護系への進学者をここ2～3年安定して十数名ずつ輩出できるようになった。総じて、進学・就職活動を通して自己表現力や基礎学力を高め自立心を育み、進学・就職とも大半の生徒が第一志望への合格を果たした。 次年度への課題として、将来への展望をもった向上心を喚起し、家庭学習習慣を確立し1年次から高い進路目標を掲げて着実な努力を継続できる人材育成を図りたい。2年次はより高い進路志望を実現する具体的な道筋を主体的に考えて行動させたい。		総合評価 Ⓐ B C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・「大学入学共通テスト」や「学びの基礎診断」を視野に、SPI等に対応できる「確かな基礎学力」の養成と並行して難関校を目指す論文表現力を育成するドリカム講座の推進。 ・2年次新規教材『高校生のための進路プラン』の導入による進路意識の涵養や動機付け等の有効活用。 ・3年間の段階的な成長に合わせた繋がりある各種キャリア教育行事の計画的運用による生きる力の伸長。各行事を繋ぐ軌跡として自己の成長を確認し、進むべき進路選択を主体的に判断できるポートフォリオを、次年度に本格的に導入される予定の『岐阜県版キャリアパスポート』への効率的な連結方法の確立。 ・働き方改革の観点から進路関連行事の一層の効率化、スリム化を図る。		

I 自己評価（総合学科部）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	総合学科部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	該当なし	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 地域及び周囲から信頼され、地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (2) 主体的に学習し確かな学力を身に付け、自己実現に向けて努力する資質を育成する。 (3) 科目選択についてのガイダンス・カウンセリングの充実を図る。 (4) 地域連携やボランティア等を通して、豊かな人間性を育む。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 企画委員会、職員会議、総合学科部会での検討 (2) 他分掌、学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 大養祭、公開講座 (2) 弁論大会、学習成果発表会 (3) 科目選択説明会、科目選択カウンセリング	事後アンケート、大会審査結果、各種メディア等の報道	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 大養祭では、系列ごとに様々な出店をし、販売実習を行った。公開講座では、地域の中学生に対し、学習の成果を伝えることができた。	事後アンケート 職員、生徒の意見 大会審査結果	A (B) C D
(2) 春休みの間に自分自身が身近に感じる問題点などを、一人一人が考え、クラスでの弁論大会を行い、クラスの代表者が校内弁論大会で発表をした。学習成果発表会では、各系列で2年間学習した内容を発表した。		A (B) C D
(3) 1年次は保護者と生徒に対して、PTA総会の前に科目選択説明会を実施した。また、「産業社会と人間」の授業見学を行った。2年次は「総合的な学習の時間」に、科目選択の説明を行った。		A (B) C D
(4) 高齢者施設や障がい者施設を訪問した。また、交通安全のストラップを作り地域の人に配布した。学校内外のゴミ拾いを行った。		A (B) C D
11 成果・課題	<p>(1) 大養祭では販売実習や地域の人との触れ合いができた。公開講座では、本校の教育の魅力が伝えることができた。</p> <p>(2) 校内弁論大会は、発表者9名が素晴らしい発表をした。聴衆は熱心に聴くことができた。学習成果発表会は、系列以外の生徒に学習成果を伝えることができた。</p> <p>(3) 1年次の科目選択説明会には、保護者の出席率は63%であり、昨年より出席者が増加している。自己の進路にあった科目の選択をすることができてよかった。</p> <p>(4) 高齢者施設や障がい者施設の訪問を通して、人との触れ合いや思いやりを大切にする心を育むことができた。交通安全キャンペーンで啓発活動を行うことができた。ゴミ拾いは地域清掃に役立った。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>(1) 大養祭では、より学習の成果と結び付ける取組にしたい。</p> <p>(2) 農業科との併置のメリットを生かし、弁論大会を農業科の生徒にも聴いてもらいたい。</p> <p>(3) 1年次の科目選択説明会の参加保護者を更に増やしたい。ガイダンス機能を充実したい。</p> <p>(4) 地域の人々との関わりを増やす事業を計画したい。</p>		

I 自己評価（農業部）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	農業部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケートによる分析は実施していない。 大養祭や各種イベント等での地域の本校生徒に対する期待の声は大きい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 持続可能な循環型社会に向けて環境・農業教育を推進し、世界規模で考え、足元から行動する学校として地域の拠点となるグローバル・アグリハイスクールをめざす。 (2) 人権感覚を養い、心の教育、命の教育、食農教育を推進する。 (3) 経営能力や奉仕精神の育成に重点を置き、基本的な農業技術能力と応用力を持った地域社会人を育成する。 (4) 地域貢献、地域連携、地域共生、地域資源の活用を推進する。 (5) 幼保小中高などに対し、農業教育活動の普及、支援を推進する。 (6) 生徒一人一人を一層輝かせ、幸せにつなげる進路指導をすすめる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 職員会議、農業部会、科長会、各学科会議 (2) 地域企業との連携や地域社会との協同体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)環境教育の推進 (2)心の教育・いのちの教育・食農教育の推進 (3)農業技術教育の推進 (4)地域に根ざした教育の推進 (5)農業教育の普及活動の推進 (6)進路指導の充実	事後アンケート、各種メディア等の報道	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 耕畜連携を推進し、乾草残渣・牛糞などの堆肥化と耕種での有効活用を進めた。水田での田んぼアート制作実践は、ホームページ等で情報発信した。飼料園を活用した自給粗飼料生産等持続可能な循環型農業生産を一步進めた。	事後アンケート 各種イベント等における地域の声 職員、生徒の意見 各種メディア等の報道	A <input checked="" type="radio"/> B C D
(2) 栽培管理、生育調査、加工品作り等科毎に野菜・水稻を中心にした実践的な授業展開を行った。また、「生命を育み、絆と未来をひろげる」のスローガンを掲げ、小学校、幼稚園児童の交流受け入れ、農福連携（特別支援学校との交流）、動物供養動など多様な心を育てる学習を推進した。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
(3) 作物部門ではお米のJGAP認証継続審査を受け、他の作目でも取得に向けての意識が高まった。大養祭では各科パネル発表を実践した。各種イベント販売においても各学科で生徒による流通販売実践に取り組んだ。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
(4) 新商品開発に関わる課題研究を通じた地域連携を推進した。農クが中心となり、東京オリパラに向けた「瓢箪イルミ&グリーンカーテン」の取組を推進した。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
(5) 新聞、JA広報誌等を通じて生徒の実習活動の様子を地域に公開した。地域への農業学習内容の普及PRの場「大養祭」も大盛況であった。特に花いけバトルin大養祭は大好評だった。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
(6) 西濃農林事務所と連携し、管内農業現地巡回学習会や西濃地域農業教育懇談会を実施し、新規就農や担い手育成に向けての意識付けを高めることができた。進路指導部と連携し、小論文指導を充実させた。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果・課題	(1) 有機減農薬栽培への転換 → 堆肥化施設の整備計画等の推進 (2) 幼・小児童等の受入継続 → 学習効果と計画的な受入 (3) 生産物の付加価値定着を図る → PR戦略と流通実践 (4) 新商品開発活動等の定着 → 連携内容を一層PR、関連業者との連携強化 (5) ファーマーズマーケット等への出荷 → 更なる販路拡大を捉え流通業者の模索と交渉 (6) 後継者育成 → 後継者育成の実践場づくり。進学へのモチベーション維持活動	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案	(1) 学科改編及び新学習指導要領への移行を踏まえた各科3本柱の見直しや農場の将来構想の構築 (2) 地域資源及び農場生産物を活用した生徒の地域活性化と流通実践への取組 (3) ホームページの定期的な更新と地域メディアとの連携によるPRの充実 (4) 後継者育成活動の充実と地域技術交流体制作り (5) 専門性を生かした進路先確保と進学意欲を積み上げる指導、国公立大学への進学者輩出を目指す	

I 自己評価（寮務部）

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	寮務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	該当なし	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 寄宿舎教育の推進に努め、集団で活動することによる人間関係、倫理観や規範意識、所属意識の高揚を図る。</p> <p>(2) 規律ある生活と学習を柱とし、日課や行事を通して調和のとれた生徒を育てる。</p> <p>(3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実を図る。また、学年、進路、HR、学科との連携を強化し、高校生活の目標と取組を高め、自己理解を深めさせる。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	寄宿舎を利用する寮生・研修生の生活に関し、寮担当教頭、舎監担当教員、栄養士・調理員相互の情報共有に努めるとともに、常に学科・学年・部活動との連携に留意した指導体制。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 寮生・研修生の学習・生活・食育に関する舎監による訓話等の指導</p> <p>(2) 日々の清掃、学習活動、週番の任務及び、寮生委員会の企画による各種行事の実施。ボランティア活動への参加</p> <p>(3) 各種研修の受け入れと指導</p>	<p>(1) 生活全般にわたる生徒の取組の様子</p> <p>(2) 舎監会議等での寮生・研修生の情報交換</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1) 寄宿舎教育の推進</p> <p>あらゆる機会を通して「寄宿舎」を有効に活用した研修及び学習活動を推進し、寮生の基本的な生活習慣に対する意識向上と「生きる力」の醸成に取り組みさせた。</p> <p>【寮生】遠隔地生徒の他、時間外実習等の専門学習や部活動に専念する生徒を受入れ、指導した。また寮生組織を充実させ、規範意識、帰属意識の向上に努めた。</p> <p>【研修生】プロジェクト専攻生、学科、部活動、農業クラブ等による研修会や資格取得、学校行事等に対応した生徒を研修寮生として受け入れ指導した。</p>	<p>生活全般における行動観察 舎監間の情報交換</p> <p>研修や学習に取り組む姿勢や定着度</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>(2) 規律ある寄宿舎生活による生徒の育成</p> <p>「自律・自立」、「清く・正しく・美しく」、「賢く」の3つの標語のもと、寄宿舎生活を通して寮生が将来の夢を実現するための、「たくましく生きる力」を身に付けさせた。</p> <p>【寮生】「自治組織の充実と活用」のため、寮生委員会および週番などの任務を寮生がしっかりと果たし、自主性や実践力が身に付く寮運営を行わせた。週番任務や委員会活動の充実に努め、規律ある生活の確立に努めさせた。（学習時間の確保等）</p> <p>【研修生】より研修効果が高められるよう、舎監長が「寄宿舎利用のモラル」を説明して周知徹底することで、集団生活を通して規律ある生活の体得に努めさせた。</p>	<p>行動観察による取り組みの姿勢や定着度</p> <p>行動観察による取り組みの姿勢や定着度</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>(3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実</p> <p>農業経営者育成研修に加え、プロジェクト研究等の専門学科研修を実施した。</p>	<p>行動観察による取り組みの姿勢や定着度</p>	<p>A B C D</p>
11 成果・課題	<p>研修を活用している生徒・指導者に偏りがあり、学校全体で寄宿舎を活用した教育に取り組むことができるよう、積極的に活用を呼びかけていく必要がある。</p> <p>寮の改修に伴い、生活環境の改善に積極的に協力できた半面、節約や衛生、維持管理について、舎監に依存する場面が見られた。</p> <p>寮生委員会を通じ、掃除時間や学習時間について、自発的に考え、自主的に寮運営を行う事ができた。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>(1) 農業経営者育成高等学校としての寄宿舎教育の充実と研修による寄宿舎活用の積極的な推進。</p> <p>(2) 寮生委員会活動を通じ、自主的な組織運営や自治能力を養う。</p> <p>(3) ボランティア活動を充実させ、学校や地域へ貢献することの意義や喜びを体感する機会を設ける。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年 1月23日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒の発表はいずれも地域に根ざした発表で、教育目標に則した内容であった。地域に愛される、地域に密着した学校へとさらに進んでほしい。
- ・バラエティ豊かな活動に驚き感動した。情報を外に発信すればもっと良い。
- ・生徒は夢を持って楽しく活動している。夢を持つことはとても大切だ。社会に出て仕事に就いた場合、学校で学んだこと経験したことが生かされていることを期待する。
- ・大垣養老の生徒は入社してすぐに実践的に活躍している。学校での諸活動が基礎となっていると感じた。
- ・地元で大養の話題が出ると嬉しくなる。さらに地域に密着の活動をしてほしい。
- ・これからも自己主張がしっかりできる生徒を育成して大養ブランドをさらに高めていってほしい。
- ・今年初めて大養祭に来校した。すごい人でびっくりした。取り組みをもっと情報発信する必要がある。
- ・大養は2021年に100周年を迎える。卒業生は約23500人。安八農高をスタートとして、幾多の変遷を重ねてきた。大垣養老高校でも開校以来15年、皆さんの努力により発展し、質が高くなっている。卒業生として嬉しく思っている。今後とも地域に根ざした、地域の学校としてお願いしたい。
- ・総合学科と農業科との連携をさらに進めてほしい。情報発信をさらに進めていけば、活動内容もさらに高まっていくと思われる。